



地球温暖化の影響により猛暑日(最高気温35度以上)や熱帯夜(夕方から翌日朝までの最低気温が25度以上)が急増。CO<sub>2</sub>排出を抑制する追加的緩和策を講じなければ21世紀末に豊岡では猛暑日が年間50日、熱帯夜が年間60日を超えると予想されている

## 6月は「環境月間」

# 地球温暖化 待ったなし 一人一人ができることから始めよう

6月は「環境月間」です。また、6月5日は「環境の日」です。環境を考えるこの機会に、脱炭素化の動きや地球温暖化対策に関する市の取り組み、さらに私たちが一人一人ができることなどについて紹介します。

次世代に安心して暮らせる地球環境を残すために、私たちにできることから取り組んでみましょう。

《問合せ》生活環境課地球温暖化防止対策室 ☎21-9136

### 「脱炭素化」の動き

#### 気候変動により 高まる災害危機

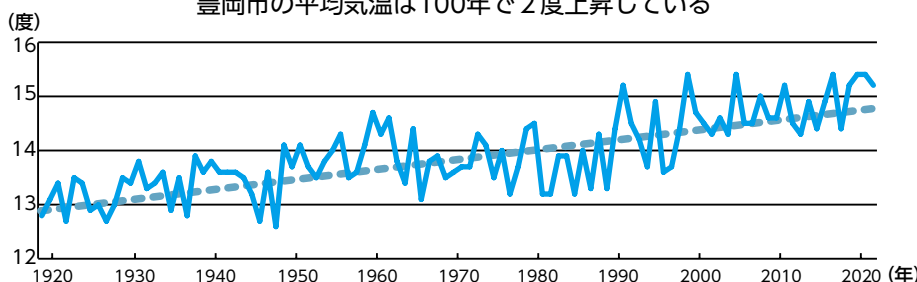
近年、地球温暖化による気候変動が進み、前例のない大規模な台風や豪雨による自然災害が頻発しています。

2015年に採択されたパリ協定では「平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2度より十分低く保ち、気温上昇を1.5度に抑える努力を追求する」と目標が掲げられました。しかし、既に世界平均気温は産業革命以前に比べて1.1度上昇しており、このまま温室効果ガスの排出を続けると、30年代初めに1.5度を超える可能性があるとされています。

このままさらに平均気温が上がるとうる災害が起きるリスクは一層高まり、規模もより大きくになると予測されています。

### 豊岡市平均気温

豊岡市の平均気温は100年で2度上昇している



※本紙に掲載している情報は編集時点(5月16日)のものです。変更になっている場合がありますので、注意してください。



地球温暖化により大規模な台風や豪雨が年々、頻発に発生し、災害リスクが高まっている



昨年12月、第1回豊岡市地球温暖化対策推進本部会議を開催



市内3カ所にある市の大規模太陽光発電施設。約800軒分の電力を発電している



市ではこれまで太陽光パネルを約800世帯、蓄電池を約80世帯に補助している



昨年7月に導入した公用車の超小型電気自動車。災害時には非常用電源としても使用可能

**”本市でもCO<sub>2</sub>実質ゼロ”を目指す**  
20年10月に政府は、50年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにする「2050年カーボンニュートラル」を宣言しました。この宣言を受け、本

市では、市長を本部長とする豊岡市地球温暖化対策推進本部を昨年11月に設置し、職員一人一人が地球温暖化対策を自分ごととして考え、全庁的かつ横断的に本市の脱炭素化の取組みを進めています。

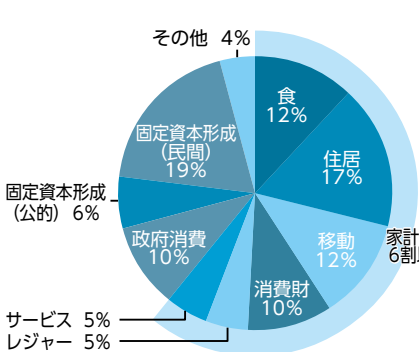
**脱炭素が世界的潮流に**  
国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)によると「気温上昇を1.5度に抑えるには、50年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにすることが必要」と明記されており、50年を目標に世界各国で脱炭素化に向けた動きが進んでいます。

**一市の取組み 推進本部を設置**  
市では、市長を本部長とする豊岡市地球温暖化対策推進本部を昨年11月に設置し、職員一人一人が地球温暖化対策を自分ごととして考え、全庁的かつ横断的に本市の脱炭素化の取組みを進めています。

**市が率先して行動する**  
また、具体的な取組みとしては、これまで大規模太陽光発電施設の設置や住宅用太陽光発電システムおよび木質バイオマス利用機器の設置に対して補助を行ってきました。

**「自分でできる1人1CO<sub>2</sub>の6割は暮らしから、それを減らすためには**  
「脱炭素なんて、私には関係ない」と思っている方。実は、消費ベースで日本の二酸化炭素排出量の約6割が、衣食住などの私たちの暮らしから出ています。つまり一人一人が暮らし方に気を付ければ、二酸化炭素の排出を大幅に抑えることができます。

通関関を積極的に利用する等、自分でできることから、少しずつ暮らし方(行動)を変えていくことが望まれます。



消費ベースでの日本のライフサイクル温室効果ガス排出量